

資料5：課題の背景・根拠等について（海外ネットワークに関する万国津梁会議）

課題	課題の背景・根拠等	会議における主な意見（第1回）※詳細は議事録
<p>沖縄県振興審議会の附帯意見</p> <p>課題(1) 若者の県人会等への参加が減少傾向</p> <p>課題(2) ウチナーンチュとしての意識等の低下</p>	<p>・アンケート「県人会活動への参加率」59%（2011）→42.8%（2016）※</p> <p>・若い世代に力を入れるべき（審議会）</p> <p>・これまでの歴史があってこそその若い世代へのアプローチがわかるような課題設定を（審議会）</p> <p>・ネットワークに県人会や若い世代だけに期待するのは弱い（審議会）</p> <p>・アンケート「自身をウチナーンチュだと思いますか」83%（2011）→79%（2016）※</p> <p>・ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティーの低下が懸念されている（審議会）</p> <p>・ハワイでは二世三世の県人会の方々が子どもたちに、我々はウチナーンチュとしての誇りを持っていると、子どもたちに強く訴えてきた。そういうものに触れ合うことによって、ウチナーンチュとしての誇り、それからアイデンティティが少しずつ養われていく。（審議会）</p>	<p>・WYUAの活動や県内大学生の取組をみると、必ずしも若者の意識が低下しているとはいえない。</p> <p>・県内の若者のアイデンティティーの高まりはある。</p> <p>・海外にウチナーンチュがいるということを知っている若者が増えてきている。</p> <p>・海外県内の状況から、アイデンティティーの低下は見られない。</p> <p>・おそらく県人会の重鎮の方々が若い人を見て自分達と違うと指摘しているかもしれない。</p> <p>・アイデンティティーとは個人に属するものであり、ウチナーンチュのアイデンティティーも一般県民と海外の県系人、移住先における世代、地域、歴史、社会環境等によって様々であり多様性がある。アイデンティティーを継承するという表現自体に疑問がある。</p> <p>・県系人の意識の低下等が課題になっているが、ウチナーネットワークの繋がりは沖縄に縁のある人々も対象であり、ネットワーク参加者における多様性について共通認識が必要である。</p>
<p>沖縄21世紀ビジョン等</p> <p>課題(3) 海外活動拠点の有効活用</p>	<p>・第1回ウ大会開催当初からの第3回までの開催目的が経済分野をはじめとするネットワークの有機的な機能の確立（1990）、第2回ウ大会の主な成果：WUBの設立（1995）</p> <p>・第4回ウアンケート「交流を深めていくべき分野」ビジネス18%（8項目中5位※1位県人会活動）（2006）</p> <p>・沖縄21世紀ビジョンの将来像「世界に開かれた交流と共生の島」の基本的課題第2項：海外雄飛の精神で移住した人々の子孫が、世界各地でウチナーネットワークを展開し活躍しており、この国際的な人的ネットワークをどのように活用していくかも重要な課題」（2010）</p> <p>・万国津梁会議設置に関する知事公約「世界のウチナーンチュネットワークを活かし、その活力を取り入れ、沖縄経済の自立的発展にもつなげていきます」（2018）</p>	<p>・ネットワークには「つながりたい」と「使いたい」という2つの目的がある。まず本会議ではどちらを目的とするか確認する必要がある。</p> <p>・ウチナーネットワークは移民の歴史を起源としており、移住者の受難の歴史、相互扶助の歴史である。その根底にあるのは人間関係や信頼関係である。</p> <p>・WUBネットワークの最初の考え方は県民と移住者が繋がること。ウチナーネットワークを繋げていくことで、ウチナーンチュと一緒にやっていきたい、ちむぐくるを通してやっていきたいというビジネスがある。</p> <p>・沖縄県民、本土にいる沖縄県出身者、そして沖縄好きな人々でネットワークを拡大することで、経済だけのビジネスではなくて、関わることのビジネスというものが広がりを見せる。</p>
<p>施設建設の要望</p> <p>課題(4) 県系人の県内活動拠点の要望</p>	<p>1987 活動拠点施設の建設要望</p> <p>1995 第2回ウ大会で建設提言</p> <p>1996 建設基本計画策定</p> <p>2000 県行政改革により見合わせ</p> <p>2001 第3回ウ大会で建設提言</p> <p>2007 計画廃止</p> <p>・以後も一部団体から要望が継続</p>	<p>※「ウチナーンチュ大会参加者アンケート調査」</p> <p>①期間：ウチナーンチュ大会の開催期間</p> <p>②場所：閉会式（セルラースタジアム）を含む関連施設</p> <p>○2011：有効回答1045人（海外62%（内、1世25%、2世27%、3世31%、4世5%、5世3%）、県外9%、県内24%、不明5%）</p> <p>○2016：有効回答1093人（海外35%（内、1世15%、2世26%、3世32%、4世10%、5世1%）、県外3%、県内62%）</p>

テーマの方向性（案）

沖縄経済の自立的発展への寄与
 （WUB、海外事務所等との連携）

ウチナーネットワークの継承
 （人材育成、アイデンティティーの多様化、県民参加、ウチナーンチュ大会等）

【共通認識①】アイデンティティーとは個人に属するものであり多様性があること

【共通認識②】ウチナーネットワーク継承の第一の目的は、「つながる」こと